

様式1

令和4年度 学校評価表

学校教育目標		かしこく やさしく たくましく	
a ミッション	地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展 ～ コミュニティスクール事業の推進 ～	a ビジョン	児童や教職員が本校や地域に誇りが持て、地域から信頼される学校

尾道市立瀬戸田小学校

評価計画				自己評価					外部評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
確かな学力の育成	基礎学力の定着	モジュール学習の内容の充実	月ごとの国語(漢字)、算数(計算)単元末テスト、得点率80%以上の児童の割合	80%	漢字76% 計算80%	漢字95% 計算100%	B	概ね目標値に近い数値を記録している。モジュール学習の時間割を各学年で作成し、確実に取り組むことで基礎学力や学習習慣の定着が見られている。12月に実施された標準学力調査(6年生)の結果から、国語科算数科ともに、全国平均以上の得点率であった。(国・全国74.5、校内75 算・全国71.6、校内71.8)言語に関する正答率は、全国82.6に対し校内86.4、数と計算領域に関する正答率は、全国74.6に対し、校内77.1であった。全国平均以上の学力が身に付いてきている。今後も帯タイムを活用し、基礎学力の定着を図る。	9			小中いずれにも言えることであるが、学力を数値で見ているが、主体性を数値で測ることはできない。学ぼうとする意欲を数値で表し、主体性が表から見えないような学校評価表の工夫が必要であると思う。 研究授業lesson studyとアクションリサーチとどう変わるのか？ 方策管理シートについて、活動達成度と方策達成度の違いをどう区別するのか。 放課後児童クラブの様子を見ているが、全体指導では指導の難しい児童が多いのを感じる。個別指導の時間を確保しないと、いつまで経っても書き順が直らないと感じる。いつ直るのか、直らないのかなと思ったりする。 年度初めのグランドビジョンについて、学校評価の評価項目と指標を合わせる方向で進めたい。	月末(4回目)のモジュールで定着確認テストを行い、合格するまで繰り返し挑戦させている。今後も引き続き継続することで児童の計算力と漢字の能力の育成を図る。 聞く力の育成に関しては、引き続き月曜日のモジュールで聴写を全校で取り組み、集中して聞く習慣の育成を図る。 中・高学年においてジグソー学習を取り入れ、様々な視点から思考させることで、児童の考えの深化を図る。		
			国語科における授業改善(1人1回以上研究授業の実施)	国語科(読む領域)単元末テスト、得点率80%以上の児童の割合	80%	82%	81%							101%	A
豊かな心の育成	ルールやマナーを身につけ、自律した学校生活を送る意欲の向上	基本的な生活モデルの定着	振り返りカードの「できた」の割合	80%	82.5%	88%	110%	A	時間を守る：1学期85%→2学期90%達成。無言掃除：1学期82%→2学期86%達成。各クラスで課題意識をもち、目標に向けて努力したことや児童の中に掃除のやり方が定着してきたことが成果となって表れてきた。時間を守る、集中して取り組むなど、学校生活における基本的な生活習慣が整ってきた。今後は、今年度の成果をベースに掃除の質を高める取組を行っていききたい。	9		無言掃除については、必要なことなら少々話をしてもいいと個人的には思っていたが、ねらいをもって取り組んでやるのは良いことだと思う。	「時間を守る」「無言掃除」については、引き続き指導していく。「時間を守る」「無言掃除」が安定した上で、「すみずみまで丁寧に」、「整理整頓を最後まで」など掃除の質に意識が向かうように児童会活動として全校で取り組んでいきたい。掃除活動を通して、公共心や自立心を育てていきたい。		
			気持ちのよい挨拶の励行	自分から進んで、誰にでもはっきり挨拶することができる児童の割合	80%	84.5%	89%	111%						A	児童アンケートでは、「自分から進んで挨拶できた」と答えた児童の割合が1学期平均82.5%から2学期平均89%と上昇した。教師評価の挨拶名人の選出は、1学期25名から2学期46名となり、児童・教師とも挨拶への意識の高まりを実感している。2学期は、6年生と各学年がペアになり、挨拶運動を実施した。その結果、自分から挨拶する子が増えたり、自主的に挨拶運動をする子が出てきた。「瀬小っ子だより」にも掲載し、取組を紹介した。まだまだ十分ではないが地道に活動を続け、挨拶を習慣化させていきたい。
健やかな体の育成	心身の健康や体力の向上を図る教育活動の推進	体力づくりの推進	新体力テストの課題	80%	55%	体力づくり87%	108%	A	2学期以降、持久力・投力への取り組みが活性化されている。サーキットトレーニングや持久力・器具を使っでの投力など工夫をしながら授業の中で繰り返し取り組みを進めているといえる。	9		コロナ禍の中、子ども達の体力低下は全国的にも大きなニュースになっています。仕方がないという反面、運動不足が精神面にも影響があると言われると心配な面もあります。家庭でできる体育の宿題などももつてみてはどうでしょう。 家庭学習のがんばりカードの内容を全学年統一ではなく、学年に応じた内容にしてほしい。	教師が体力づくりの課題を意識しながら運動に取り組むことが必要である。コロナの状況に合わせて体育委員会が考えた楽しい運動遊びを実施していく。		
		食育・健康教育の推進	給食後の歯磨きの徹底	う歯のない児童+処置完了者の割合	80%	85%	歯磨き94%	113%						A	2学期以降、86名の家庭に懇談会等を通して、冬休みに歯科への受診を促すように個別に声かけを行った。また、発育測定の前には養護教諭が保健指導として歯みがきの大切さについて指導を行った。
信頼される学校	小中高一貫教育の推進と開かれた学校づくり	地域連携によるふるさと学習の充実	小中高連携と地域と関連づけた「ふるさと学習」の教材化	80%	92%	94%	118%	A	児童アンケートでは「ふるさと学習は意味がある」と振り返った児童の割合が93.8%と高くなった。低学年では生活科の学習で地域探検をしたり、地域の方をゲストティーチャーとして招き海の生き物教室や昔遊び教室を行ったりして地域の良さを見つめる活動を進めた。3年生以上は総合的な学習の時間に、地域の方にインタビューをしたり、集めた情報をまとめる活動を行った。さらに、かかわった方を招いて報告会をしたり、オンラインで他校と交流するなど、学んだことについて発信する取組を行った。	9		自分の後輩である瀬戸田の子ども達が地域を救うプロジェクトに取り組んでいることがうれし。その様子を地域を離れた人たちが喜んで関心を持ってくれると思う。観光地であるふるさと、素晴らしい場所であるという自覚を持たせるといい。小中いずれも当てはまるが、地域が学校を支えている。学校の取組が地域を支えているのである。 (5年生の「しおまち応援プロジェクト」の) 図鑑づくりを楽しんでいる。地域の人に、学校の取組を上げられるお披露目の場をつくってあげたい。 地域支援ボランティアに対する、1年生のお礼の手紙はお手紙はとてうれしかった。反対に子ども達から元気をもらっている。集まりの中で紹介したらみんなの一生懸命読んで、全員にまわらなかつたくらいだ。	コロナウイルス感染拡大に十分留意しながら、地元の人だけでなく観光客や新規参入のお店の人と積極的に連携しながら活用していく。 地域貢献できる情報発信を工夫していく。		
		学校情報の積極的公開	学校だよりの発行	保護者アンケート「学校だよりの発行がわかる」における肯定的な回答の割合	80%	83%	79%	99%						B	保護者アンケートの肯定的評価は78.6%であった。目標値は下回ったが、「HPを見ている」と回答した人に絞った場合は90.7%であった。HPに関心を持っている保護者には「様子がわかる」と評価されており、毎月の学年のページを更新したり、学校行事や参観日の様子を公開するなどして、学校に関心を持ってもらう取り組みを継続している。さらに、HPに保護者向けの生徒指導だより等を掲載し、家庭での保護者啓発にも活用している。
		働き方改革の推進	時間外勤務時間の削減	月45時間以内の教職員の割合	80%	70%	81%	100%						A	8月は全員が目標を達成した。1月は45時間未満が21名(88%)になり、徐々に時間外勤務時間の削減が進んでいると考えられる。また、12月に実施した働き方改革アンケートでは「業務改善の目的を教職員全員で共有できている。」についての肯定的回答が100%(市内小中平均82.9%)となり、教職員の業務改善への意識が高まっていると考えられる。

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
B：80≦(ほぼ達成)<100
C：60≦(もう少し)<80
D：(できていない)<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。